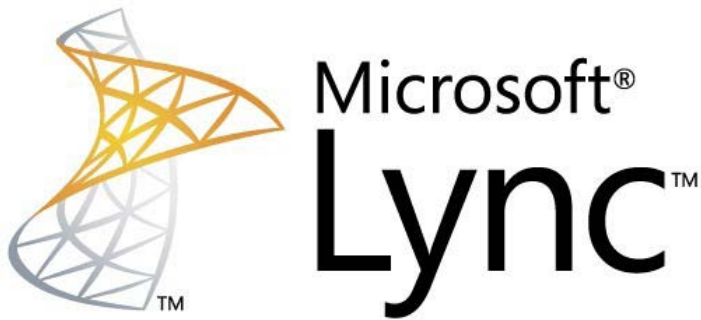


Microsoft本社 LyncサービスをアルバのWi-Fi上で稼働



世界最大のソフトウェア企業の1つであるMicrosoftは、自社のIT基盤をベースとして社員、顧客、ベンダー、パートナー間のコミュニケーションやコラボレーションを実現し、これを最大限に活用しています。ユニファイド・コミュニケーション・ソリューション分野の世界的リーダー企業の一社として、Lyncアプリケーションを動作させるMicrosoft社内のITインフラには、高い性能と堅牢性が求められます。

このため、Wi-Fiを使用したLyncの音声およびビデオサービスを、米国ワシントン州レッドモンドにあるMicrosoft本社で開始するには非常に高い基準が設定されました。サービスが最初に導入されたBuildings 30とBuildings 31の2つのビルにはLync開発チームとエグゼクティブ・マネジメントチームが入っていたため、とりわけ厳しい要件が求められました。何らかの不具合が少しでも起これば、Lyncの設計や運用管理に携わる400～600人ももの社員に影響することになるからです。

Buildings 30とBuildings 31には、IEEE802.11n規格準拠の3x3MIMOデュアルバンド・ラジオ2基を装備したAruba AP-135アクセスポイントが合計167台導入されました。アクセスポイントはAruba OS 6.1.3.4搭載のAruba 6000 M3コントローラーによって運用管理されます。Arubaの他のコントローラーやデュアルバンド・ラジオ搭載のアクセスポイント製品と同様、これらの製品はMicrosoft Lyncの認定資格を取得した唯一のWi-Fiソリューションです。

ここでは、すでに商用提供されているMicrosoft Lync Server 2010と、最新のLync Server 2013のMicrosoft Lyncの2つのバージョンが使用されています。当然のことながら、2つのビルを通じ、Windows 7およびWindows 8搭載のノートPCやタブレット、Windows Phone 7および8、さらにMacやiPhone、iPad、Android搭載スマートフォンまで、サービスを稼働させるマルチメディア・クライアント端末は非常に多岐に渡っています。使用されるすべてのクライアント端末はIPv4に対応しており、およそ半数の端末にはIPv6対応機能も搭載されています。

MicrosoftのITテクノロジー・アーキテクトであるVictoria Poncini氏は次のように述べています。「1台あたり18mx18m(60x60フィート)のセルサイズを持つアクセスポイントを導入して、多数のクライアントが集中する高密度環境をサポートしています。アクセスポイントは1台平均20人の社員をサポートしており、それぞれのユーザーはスマートフォン、タブレット、

要件

- Enables Lync Mobility for Buildings 30 米国ワシントン州レッドモンドのMicrosoft本社敷地内のBuilding 30およびBuildings 31でLyncモビリティを実現させる
- 建物内を信頼性の高いWi-Fiネットワークで網羅し、コラボレーションと生産性を拡大
- ワイヤレス接続における音声およびビデオのセキュリティを確保

ソリューション

- Aruba 6000 本体
- Aruba M3 コントローラー
- Aruba AP-135 802.11n アクセスポイント
- Aruba Policy Enforcement Firewall

メリット

- 開発チームおよびエグゼクティブ・マネジメント・チームにシームレスなモビリティを提供
- 製品クラスの音声品質とジッタを除去したビデオを実現
- 1ユーザーあたり3台のマルチメディア端末をサポートする高密度のクライアント・サポート
- 社員600人に対しプライマリ・ネットワークアクセスを提供



ノート PC など 3 台程度のデバイスを使用しています。アクセスポイントに障害が発生しても確実に接続を継続できるように、アクセスポイントは近接セルとカバー領域を 25% 重複させて配置されています。Aruba 独自の Adaptive Radio Management (ARM) を採用して、動的な無線 (RF) 環境やマルチメディア向け Wi-Fi 帯域のニーズに対応しています」

Adaptive Radio Management (ARM) は高密度な無線環境下においても、無線パフォーマンスを自動的に最適化し信頼性を高めます。社員 1 人ひとりが使用するデバイスの数がますます増加するに従い、無線間の衝突を最小限に抑制し、無線割り当ての公平性を向上させてユーザーエクスペリエンスを強化する ARM の調整機能の重要性は高まります。

無線クライアント端末上での Lync サービスのパフォーマンスは、サービスが運用されるネットワークの機能に依存しています。Lync の音声およびビデオサービスのように厳しいレイテンシー要件が課せられるリアルタイム・アプリケーションの場合は特に、無線ネットワーク・ベンダーによって QoS (クオリティ・オブ・サービス) の実現方法は根本的に大きく異なります。

従来のネットワークではアプリケーションごとに QoS を設定し、無線タブレットであればデータ VLAN を割り当てるというように、特定の無線 SSID や VLAN にアプリケーションが割り振られます。こうしたサービス設計では、タブレットのようなマルチメディア端末でデータからビデオ会議にアプリケーションを切り替えたり、2 つのアプリケーションを同時に稼働させたりする場合に問題が生じます。

Aruba はユーザー、デバイス、アプリケーションを認識する機能を持ったネットワークを構築することによって、こうした問題を解消します。ディープパケット監査によって、リアルタイムトラフィックを識別し、それぞれを分離して優先順位付けを行い、単一デバイスで生成される複数アプリケーションのトラフィックフローをそれぞれ区分します。このため、別の VLAN に頼ることなく、単一 SSID を使用してデバイスのアプリケーションごとに QoS を適用できます。

このアプリケーション認識機能は暗号化された Microsoft Lync のトラフィックにも適用され、音声およびビデオパケットをヒューリスティックに正確に特定して、それぞれに適切なネットワーク設定やポリシーが適用されます。有線と無線のネットワークは通常、一体化して使用されるため、Aruba では有線 DSCP (DiffServ コード ポイント) タグや Wi-Fi マルチメディア (WMM) タグを割り当てて、有線・無線の両方のネットワークを通じてエンドツーエンドの QoS を確保します。

「アプリケーション認識機能が効果的であることはすぐに見て取れます。このシステムでは商用サービスの 96% を超える品質で 1 か月平均約 1 万 6,000 回の通話を記録し、従来のネットワークに比べて通信品質を 50% 向上させています。このネットワークでは、QoS に忠実に従ったエンドツーエンドの Lync サービスを、設計者の思い通りに実現しています」と Microsoft のポンチーニ氏は述べています。

ユーザー概要

Microsoft (NASDAQ : MSFT) は 1975 年に設立され、ソフトウェア業界の世界的リーダーとして、個人や企業が能力を最大限に発揮するためのサービスやソリューションを提供しています。



© 2011 Aruba Networks, Inc. AirWave®, Aruba Networks®, Aruba Wireless Networks®, 登録ロゴ「Aruba the Mobile Edge Company」、Aruba Mobility Management System®, Mobile Edge Architecture®, People Move. Networks Must Follow®, RFProtect®, および Green Island®はAruba Networksの商標です。All rights reserved. 他のすべての商標は、各社の所有物です。

CS_MicrosoftLync_111512

■ 開発元

アルバネットワークス株式会社

〒105-0004 東京都港区新橋5-27-1 パークプレイス3F
TEL. 03-6809-1540 (代表) FAX. 03-6809-1541
<http://www.arubanetworks.co.jp>

■ お問い合わせ